

専門家ヒアリング

目的：流出解析手法やそれに関連する以下の専門分野の理解をより一層深めるためにある。

- ・ 基本高水の決定に重要である流出解析法の専門家
- ・ 基本高水の決定に重要である既存データの取り扱いに詳しい専門家
- ・ 利根川の洪水に詳しい専門家

実施方法：ヒアリングにおいては、委員長が司会進行を行う。専門家は 15 分で報告を行い、15 分の質疑応答の時間を設ける（合計 30 分）。

専門家の人選：原則として学術的な業績を基準として人選を行う。

1.流出解析関係

1)貯留関数法の適用：関良基氏（拓殖大学准教授）

森林政策学に関わるに関わる学術的専門立場にあって、自ら利根川の洪水流出解析を行い、学術的に手法の問題点を指摘している。

2)連続的な流出解析法：Wang Lei 氏(東京大学准教授)

陸面モデルと分布型流出モデルを組合わせて連続時間で計算可能な水エネルギー収支分布型水循環モデル(WEB-DHM)を開発し、利根川への適用に関する研究実績を有する。

2.利根川の洪水

1)宮村忠氏(関東学院大学名誉教授)

わが国の治水、利水と自然的、社会的、歴史的要因との関連性に造詣が深く、利根川の洪水形態と治水史について現場踏査を含めた豊富な研究歴を有する。

2)大熊孝氏(新潟大学名誉教授)

利根川の東遷の歴史に詳しく、洪水特性、渇水特性と貯水効率の研究や、河川および流域の開発による洪水流出の変化に関する研究歴を有する。

3.観測データと降水量分布

1)藤部文昭氏(気象庁気象研究所)

アメダスデータをはじめとする地上観測データを用いた地域気候特性に関する豊富な研究歴を有する。